事業番号	事業名	事業概要	確定額（千円）	事業区分
		事業実施により実現できた具体的効果・成果		
	事業者名	実施地等		重点等
		実施期間		
	URL			

内5	第26回国際鳥類学会議	日本の鳥類学研究に対する国際的評価に応えた国際貢献として、永年多くの外国人研究者に待ち望まれてきた責務を果たし、将来の学問の発展を見据えたとき、若い研究者が国際的な活動を経験して能力を高めていく環境を創出し、アジア・太平洋地域の学術交流を促進し、一般の方々に鳥類学研究の現状や魅力を知ってもらい、それを通じて、貴重な自然環境や野生鳥類の保護についての関心を高めてもらうための国際会議を開催した。	3,200	国際会議
		第26回国際鳥類学会議東京大会では、鳥類を対象にした基礎研究のみならず、鳥類が生息する環境の保全など地球環境問題も重要なテーマとして取り上げられた。鳥類と航空機や風力発電施設との衝突、鳥インフルエンザや西ナイル熱などの感染症の伝播など、人間生活と密接なかかわりをもつテーマについても議論された。また、原子力発電所の事故が鳥をはじめとした野生生物、生態系、および、人類が享受する生態系サービスなどにおよぼす影響についても議論された。こうした議論は、人間生活と野生生物や自然との共存のあり方に多くの示唆を与えたと期待される。日本初となった今大会の開催によって、日本の鳥類学研究者の研究実績を世界にアピールすることができた。また、世界各国から発表のために約250名の学生が集まったことは、将来の学問の発展を見据えたとき、若い研究者が国際的な活動を経験して能力を高めていく環境を創出し、アジア・太平洋地域の学術交流を促進することにつながった。また、日本各地の鳥類・自然についての情報をホームページなどで事前にアピールでき、貴重な自然環境や野生鳥類の保護についての関心を高めてもらうことができた。日本に生息する鳥類の種分化の歴史や渡りの経路を考えると、東アジアを包括する広い範囲の研究者達の学術交流が望まれていたが、包括的で定期的な学術交流はこれまでなかったため本会議開催が契機となって、東アジア地域の学術集会の開催やこの地域の学術誌の国際化の促進も期待される。		
	第26回国際鳥類学会議実行委員会	【実施地等】東京		
		【実施期間】2014/8/18～2014/8/24		
	http://ioc26.jp/			